令和5年度

南小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○言語活動を充実させ，学ぶことの楽しさや伝え合うことのよさを実感するとともに，自分の考えや思いを正しく豊かに表現し合う児童を育てる。
○１人１台端末を効果的に活用し，児童の思考を広げ･深める。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員（※○＝学年主任）
小川江里②	谷口和久(教頭)･近藤明子③･元木伸江（教務） 須崎雅美⑥･村山恵梨華⑤･株田沙耶香④･竹下智美①

校長
森田　充

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】 校内研修やメンター等，様々な機会を捉え，取り組み状況の把握を行う。

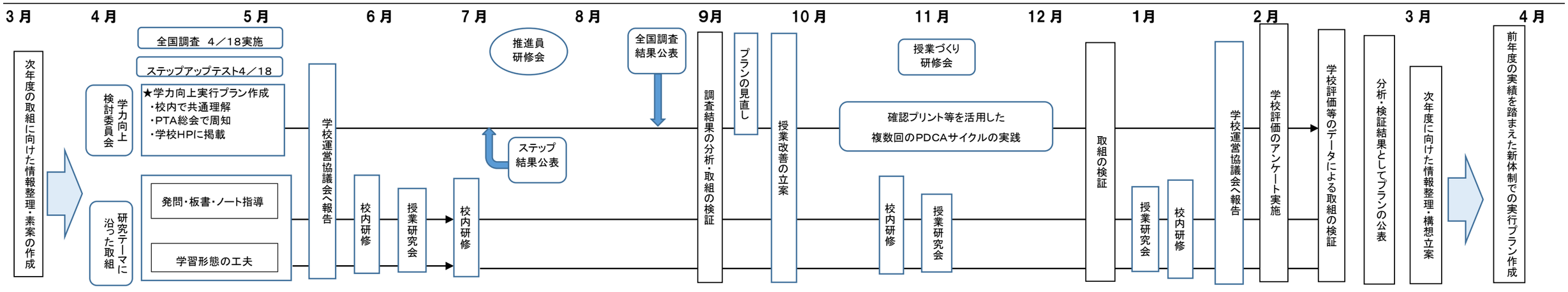
（１）知識･技能の習得

児童生徒の状況（○よさ･●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基本的な計算や漢字等について，具体的な目標をもって意欲的に繰り返し学ぶ習慣が付きつつある。 ●基礎的･基本的内容を用いて，発展･応用問題を解くことに課題がある。	･習得した知識を既習の知識と関連付け，他の学習の場面で活用することができる。 ･語彙数を増やし，正確に読んだり書いたりできる。	･朝のスキルタイムや授業の導入部で，単元ごとの復習や既習内容(前学年まで)の発展問題を取り入れた課題を与え，継続して行う。取り組む時間や点数を設定し，意欲的に取り組めるようにする。 ･聞き方，書き方，発表や話し合う際のモデルを，学級の実態に応じて具体的に提示する。	･週2回ある朝活15分間（スキルタイム）で，算数･国語の学習を学年で統一して行う。下学年はマス計算や語彙を広げる内容，上学年は県の「学力向上確認プリント」を活用した内容を取り入れる。 ･教室掲示の「声のものさし」を用いた話す･聞くの常時指導，スピーチでの話し方や内容，時間，質問内容等を深める指導をその都度継続して行う。	○朝活や授業導入時に，計算･漢字テスト，音読･視写，読解問題等に繰り返し取り組んだことにより，基礎･基本が定着しつつある。点数･タイム･ポイントなどの工夫により，意欲的に取り組む姿が見られた。 ○スピーチのテーマを児童が関心のあるものに設定したり，よい作文を紹介したりすることにより，よく聞き，文章力の向上につながっている。	○短時間で，児童が意欲的に継続して取り組めるスキル学習の内容を，学年等で合わせてさらに精選していく。 ○学力向上プリントの活用方法を工夫する。（朝活･宿題など） ○朝活（情報の時間）に，ローマ字の読み･書き･入力等のスキルを高める課題を取り入れる。

（２）思考力･判断力･表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ･●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを意欲的に発表し，友達の意見に関心をもって聞ける児童が多い。 ●自分の考えを整理したり，複数の考えから新しい考えを再構築したりすることに課題がある。	･決められた条件の中で，必要な情報を使って自分の考えを書いたり説明したりすることができる。 ･根拠や理由をあげて自分の考えを確かに，豊かに表現することができる。	･新聞作りや報告文など国語科で学習したことを他教科等で活用する場を増やし，実生活で使えるようにしていく。 ･目的や児童の発達段階に応じた思考ツールを選んで繰り返し活用することにより，自分の考えを整理するよさに気付かせ，活用法を身に付けさせる。	･新聞作りやお礼の手紙，紹介文，ポスター作りなどのそれぞれの特性，共通点や相違点などに気付かせながら，必要に応じて使い分けることができるようにする。そのために，既習内容に加えて，発達段階や相手･目的に応じて重点的に指導する事項を明確にし，表現する場を工夫する。 ･低･中学年では，思考ツールの使い方に慣れ，よさを実感させる経験を積み重ねていく。高学年では，授業以外に学校行事等を活用して，目標に合った思考ツールを選んで活用できる場を設ける。	○思考ツールを繰り返し使うことにより，使い方が分かり，児童の取り組みやすさを感じた。スピーチや作文の組み立てメモに活用できた。 ○習った漢字や言葉を正しく･進んで使うことには課題があるが，伝える相手が明確にあると，丁寧に書いたり，何度も読み返してよりよい表現に修正したりする姿が見られた。	○発達段階や目的に応じて，思考ツールの活用を継続して行い，自分の考えを広げる･まとめる力を育てていく。線引きや色分けなど，よく読んで情報を整理する方法も，並行して指導していく。 ○児童の興味･関心を持続させながら，自覚的に習ったことを活用できる場を設定した魅力ある単元を開発していく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ･●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○一人一台端末を活用した学習に，意欲的に取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見出して追求したり，少し難しい課題に対して知的好奇心を高めて粘り強く取り組んだりすることに課題がある。	･学習課題に対して必要感や目的･相手意識をもって楽しみながら取り組み，自分の成長を実感している。	･図書や１人１台端末，体験活動等を計画的に取り入れたり，成果を発表する場を設けたりして，学習に対する達成感を味わわせる。 ･１人１台端末(学習アプリやインターネット等)や学校図書館を活用して，児童自身が自分に合った学習方法を選択して学べる環境を整える。	･タブレット端末を用いた個人･グループのプレゼンテーションに，意欲的に取り組んでいる。内容をさらに吟味しながら学年に応じて取り入れていく。 ･メタモジの共有機能を用いた感想を書き込む活動は，短時間で多くの子と意見交換ができ，個々の学習意欲を高める効果がある。アプリの特性や効果を教師間で共有して学習指導方法を考えていく。 ･毎週末の家庭読書や異学年ペア読書，親子読書，地域の方や図書委員による読み聞かせ，図書館から本の貸し出し，子供新聞を用いたスピーチ･作文など，授業以外でも読書に親しむ習慣をつける取り組みを行う。	○本年度から復活した，読み聞かせやペア読書などを楽しむ姿が見られた。 ○学んだことを活用して発表･交流する場があることにより，表現の仕方を自ら工夫する姿が見られ，表現力の向上につながった。 ○隙間時間を活用して，進んで学習アプリやインターネットでの調べ学習に取り組んでいた。	○「楽しかった」「またやりたい」「上手になった」という言葉が児童から出てくる経験を積み重ねていく。学習成果を校内や保護者，地域に発信して評価をもらえる場をつくる。

令和5年度　学力向上ロードマップ